

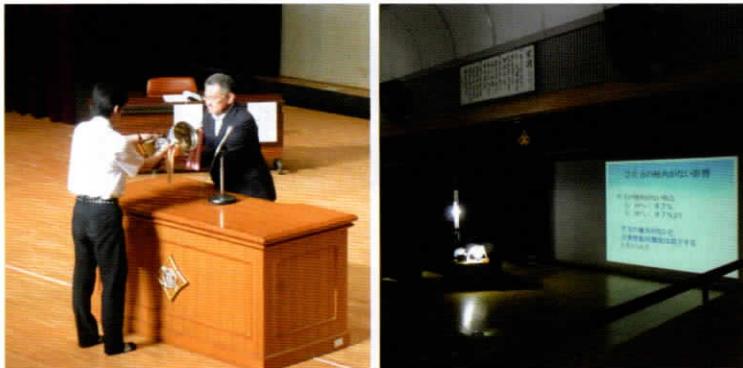
暁角

暁角(ぎょうかく)～夜明けを知らせる角笛の音～

平成26年度福岡県理数科 課題研究発表大会

- 1 日 程 平成26年6月11日(水)
- 2 場 所 福岡県立筑紫丘高等学校
- 3 参加生徒 1,2年理数科80名
発表者 3年理数科4名
- 4 発表テーマ ダンゴムシの交替性転向と外的条件

第9回福岡県理数科課題研究発表大会が、福岡県立筑紫丘高等学校において行われ、本校の発表者4名は優良賞を受賞しました。この大会を通じて、入念な事前準備と継続した課題研究が必要だと感じました。



平成26年度 福岡県高校生科学技術コンテスト 団体2位入賞・成績優秀者14名表彰

平成26年6月15日(日)に実施された「福岡県次世代の科学技術を担う人材育成事業高校生科学技術コンテスト」(1,082名受験)において、明善高校から84名(理数科1・2年77名、普通科7名)の生徒が参加し、本年度は昨年度以上に健闘し、団体では第2位となり、県庁において優秀校表彰を受けました。

また、個人においても、14名の生徒が成績優秀者に選ばれ、九州大学で開催される「科学的思考向上セミナー」に4名、「世界に羽ばたく未来創成科学者育成プロジェクト」に4名の生徒が選出されました。



科学者の卵講座

- 1 日 程 平成26年7月19日(土)
- 2 場 所 福岡県青少年科学館
- 3 対 象 地域の小学生・中学生
- 4 参加生徒 科学技術プロジェクト 2年理数科

SSH活動で学んだことを地域社会に還元し本校の活動を広く理解してもらう機会として、小学生・中学生を対象とした科学実験教室を開催しました。今年で3年目を迎え、会場となった青少年科学館2階の工作室には、午前中から、昨年より多い約800名の参観者があり大盛況となりました。

各プロジェクトの生徒および理数科の生徒たちは、笑顔で子どもたちとふれあいながら、展示物や体験コーナーの解説を熱心に行いました。

本活動を通じて、目を輝せる小中学生に刺激を受け、教えることの楽しさを学ぶことができました。

5 生徒感想 2年5組 篠原 百香

私は、物質科学プロジェクトチームの部長として化学系の展示、公開実験に携わりました。色の変わる溶液の化学マジックでは、子供たちの笑顔や驚く様子を見て大変嬉しく思うとともに、科学の面白さを改めて感じました。理数科と各プロジェクトチーム全員のおもてなしの心と配慮の精神が十分發揮された1日だったと思います。



第1学年先端科学技術体験学習

- 1 日 程 平成26年7月31日(木)、8月1日(金)
2 場 所 北九州エコタウン
九州電力株式会社玄海原子力発電所
近畿大学産業理工学部
熊本大学工学部物質生命化学科
佐賀大学海洋エネルギー研究センター
崇城大学生物生命学部応用生命科学科
長崎大学環東シナ海環境資源研究センター
長崎大学熱帯医学研究所
いのちのたび博物館 安川電機
3 参加生徒 7月31日(木)1年 320名全員
8月1日(金)1年8組 40名

今年から、1年生全員を対象とした取組となりました。クラス毎に2ヶ所の研究施設を訪問し、最先端の研究を見学し、大学の先生の講義を受講しました。大学で学ぶことの意義や喜びを知るとともに、学んだことを生かし、最先端の研究を行うことに興味や関心を持つことができました。

また、事前学習を行うことで、単なる施設の見学に終わることなく、自然科学に対する知識や理解を深め、知的好奇心を高めることができました。今回の体験学習で学んだことは、3学期のSSH成果発表会でポスター発表する予定です。



第2学年先端科学技術体験学習

- 1 日 程 平成26年7月31日(木)～8月2日(土)
2泊3日
2 参加生徒 2年希望者 64名

- 1日目 独立行政法人理化学研究所
計算科学研究機構「京」見学



京都大学在学OBとの懇談会



- 2日目 京都大学 再生医科学研究所での研修見学



化学研究所
こころの未来研究センター見学

- 3日目 海遊館見学



- 3 生徒感想 2年5組 石橋 朋樹

AICSでは、世界トップクラスのスパコン「京」の様々な魅力が紹介され、日本の科学技術の高さに感動しました。また、京都大学での懇談会では、先輩方からいろいろな体験談を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

SSH全国大会

- 1 日 程 平成26年8月5日(火)～8月7日(木)
2 泊 3日
2 場 所 パシフィコ横浜
3 参加生徒 科学技術プロジェクト
(物質化学プロジェクトチーム6名
他プロジェクトチーム希望者18名)

全国のSSH指定校約200校と海外からの招聘校が参加したSSH全国大会に参加しました。本校からは物質化学プロジェクトチームが「茶葉ビタミンCの熱安定性に関する研究」というテーマでポスター発表を行いました。他校の優秀な発表に触れながら、発表の仕方や聞き手に理解してもらうための工夫等、多くのことを学ぶ貴重な機会となりました。

4 生徒感想 3年4組 田中 聖也

SSH全国大会で発表をした3日間は、大変有意義で貴重な体験となりました。ポスターセッションでは、聞き手は踏み込んだ内容まで知りたいのか、それとも内容の骨格を知りたいのか等を考え、臨機応変に対応する必要がありました。聞き手の要求を考え、質疑を交えながら説明するポスター発表は、様々な意味で自分を成長させることができました。



国際サイエンスプログラム

- 1 日 程 平成26年8月19日(火)～23日(土)
2 場 所 ハウステンボス 九州大学
海水淡水化センター 福岡市電気ビル
3 参加生徒 発表者 川邊隼輔(3年) 金堀優作(2年)
1, 2年希望者10名

城南高校(S SHコア校)の重点枠事業として平成25年度から2年継続で実施されている「持続可能性社会に関する共同研究プログラム」に参加しました。科学に関する英語による高いコミュニケーション能力を育成する貴重な体験となりました。本校生徒は、城南高校、嘉穂高校の生徒とともに、炭を用いた水の浄化能力に関する研究に取り組み、研究の成果を英語で発表しました。足かけ2年にわたる学校間連携による課題研究の総仕上げとなった本年度は、外国からの交流校を迎えて実施され、全ての活動が英語で実施されました。本校の2名も英語による口頭発表やポスター発表のための準備、練習に多くの時間を費やし、実践的な語学学習の機会を得て、最終日の発表会では練習の成果を十分に発揮することができました。一方、発表者以外の1, 2年生の理系参加者も英語研修を含む研修や発表会に参加し、積極的に英語コミュニケーション能力の向上に努めました。

4 生徒感想 3年9組 川邊 隼輔

1年目のオーストラリアでの研修後、2年目の今年は、研究実験で大変な時期もありましたが、協力しながら、最後まであきらめずに実験を続け成果を出すことができ大変嬉しく思います。これまでの英語研修を経て、英語コミュニケーション力も向上し、最終日のポスターセッションでは、この2年間で頑張ってきたことを出し切り、やり遂げることができ満足しています。



S S H講演会

- 1 日 時 平成26年6月9日(月)14:00~17:00
2 場 所 久留米市民会館
3 参加生徒 全学年生徒

この講演会は、科学技術の第一線で活躍する技術者や研究者を招聘し、これから社会で活躍できるリーダーの育成を目指して、毎年実施しているものです。

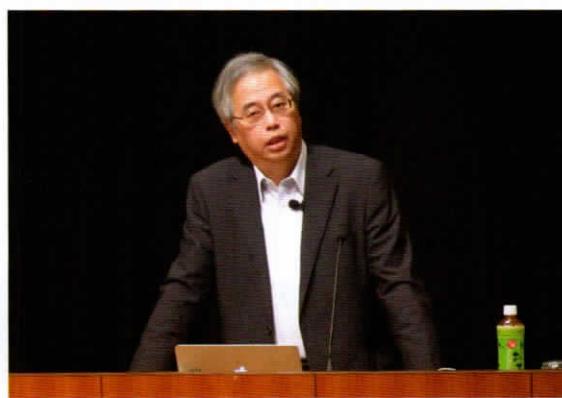
本年度の演題並びに講師は以下の通りでした。

- 演 題 「DNAが語る日本人の起源」
講 師 独立行政法人 国立科学博物館
人間研究部 人間史研究グループ
グループ長 篠田 謙一 氏

科学者としての使命感、社会におけるコミュニケーション能力の重要性など、科学技術のトップランナーの視点からの講演に、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。

専門的な内容も多くありましたが、人類の起源を科学的に捉えるという視点は、とても興味深い内容でした。

また、講演会後に行われた交流会には15名の生徒が参加し、活発な議論が行われ、講師の先生と交流を深めることができました。



天体観測合宿

- 1 日 時 平成26年8月10日(日)~12日(火)
2 場 所 九重青少年の家
3 参加生徒 1, 2年希望者 31名

小倉高校コアS S H事業として県下6校の生徒、総勢164名の高校生が集まり、九重の大自然に囲まれた施設で天体観測合宿を行いました。今回は天候不良のため残念ながら星空を観測することはできませんでしたが、福岡教育大学名誉教授の平井正則先生をはじめ、九州大学の藤原智子先生、東京大学大学院で宇宙を専攻する小倉高校OBから宇宙に関する講義をしていただきました。生徒はメモを取りながら熱心に講義を聴き、宇宙への理解を深めることができました。また、久住山登山では、頂上で霧が晴れ、眼下に広がる大自然に生徒たちから大きな感動の声が上がっていました。九重の自然の豊かさを感じることができ、充実した合宿となりました。



サマーサイエンスフェスタ

- 1 日 時 平成26年7月20日(日)
2 場 所 九州工業大学 戸畠キャンパス
3 参加生徒 1年理数科 40名

年々規模が拡大しており、本年度は2,500名の参加者を数えました。県内の15校が参加し、県外からも1校参加するなどレベルの高い発表会として定着しつつあります。

ポスターセッションでは、35チームの研究発表が行われました。また科学体験実験では、29チームが小学生を対象とした体験実験・実習を行いました。

この事業は、小倉高校コア事業の一環として実施されており、JSTによる地域の中核事業として、高い評価を得ています。

本校からは1年理数科の生徒が参加しました。レベルの高さに大いに刺激を受け、今回の事業に参加することで他校の生徒が生き生きとしながら活動していることに、大変感銘を受けていました。

